

TOKYO FM パーソナリティ・カレッジ
朗読・ナレーション講座 カリキュラム例

【 基礎編 】

回数	テーマ・題材	内 容
1	地の文章の捉え方と膨らまし方 「小説」の文章から	とある作家の作品を使用して、地の文章の中に潜む登場人物の感情を、語り手が代弁できるかどうかには挑戦します。より立体的に、温もりのある表現ができるかどうか…。他人事として捕らえるのではなく、親身になってあげられるかどうか、登場人物と同じ目線になれるかどうか、一緒に考えましょう。
2	全体の構成を考えよう 「小説」の文章から	目線をどこに置くかがわかったら、パート毎の意味合いを考えて、最終的に全体をどのように構成するかを考えます。
3	登場人物のイメージを想像する事と スケール感の出し方 「ドラマ」の台本化から	1、2 回目と同じように、ある作品を使用します。登場人物をどのようなテイストのキャラにするのか…。また、置かれた立場、環境によって、その人物の語彙等の変わることを探りましょう。そして、事象によっても語り手の声の出し方、テンポが変わることを体験し、より臨場感のある読みに近づけましょう。
4	全体の構成を考えよう 「ドラマ」の台本化から	2 回目と同じように、全体のバランスの中での、各パーツの持つ役割を探り、最終的な構成を考えたいうえで語ってもらいます。
5	時代物に挑戦 「時代小説」の文章から	今までの回とはテイストの違うものに挑戦し、押しの強い読み方を学びます。しかし、基本的には語り手の役割は同じ。登場人物の気持ちの代弁ができなければなりません。
6	SE & ME を交えての録音授業 「時代小説」の文章から	登場人物を想像しながら、また、演じ分けながら、物語自体を読み進め、音楽の区切り、SE をイメージングの手助けにしつつ録音します。

TOKYO FM パーソナリティ・カレッジ
朗読・ナレーション講座 カリキュラム例

【 応用編 】

回数	テーマ・題材	内 容
1	初見での読み 2種類のテイストのもの	文体によって、語調によって、制作サイドはトーンやテイストを要求してきます。それを、察知し的確に表現してみましょう。
2	音楽に合わせて (曲調に合わせて読み分ける)	使用される ME によって、テイストを変えなければならない場合があります。同じ文章を用いて、曲違いで読み分けてみましょう。
3	語り分け 「ドラマ」の一節から	地の文章（一人称読み）と登場人物2名の語り分け、加えて、展開に応じての緊張度の増し具合や恐怖の進み具合等を演じ分けましょう。（ただ、1986年初版物なので、不適切表現が含まれています）
4	SE を交えて 「ドラマ」の一節から	SE を交えて録音してみましょう。
5	作家体験 (作家気分を味わう)	2人1組になって、前もって作成しておいたお互いの作文を読み合います。当人でなければわからない行間をいかに探るか……。また、イメージの持ち方等気づくことも多いかと思います。これから先の仕事である「他人が経験した出来事」を、いかに「自分の経験」であるかのごとく読んでいく、最初の一步です。
6	気分を変えて 詩の朗読 ストレート NR バラエティ系 NR	題材によって、気分を変え、雰囲気を変えなくてはならない場合があります。何種類かの題材を用意しますので、気分を変えて読んでみましょう。